

桃太郎

チャレンジキャンプ

2019 報告書





達成感や
自己肯定感
自信へ

[めあて]

自分のことは
自分でする

調理体験 テント張り
生活体験（荷物整理等）
1人で寝る

何事にも
チャレンジする

ロングウォーク
鬼ノ城アタック

合言葉
レッツ
チャレンジ!

相手のことを
考えて行動する

仲間作りゲーム
振り返り
バウムクーヘン作り
キャンドルのつどい

3つの目的は関連

桃太郎チャレンジキャンプとは

小学校 3・4 年生

ギャングエイジ→高学年へ向けて

- ①コミュニケーション力の向上
- ②協力してよりよい集団生活を築こうとする態度を育成
- ③自尊感情の高揚や自己肯定感の向上
- ④自ら困難なことにもチャレンジ
- ⑤自分自身を認めようとする心を育成



桃太郎チャレンジキャンプ 報告書 2019

◎事業の概要	3
◎令和元年度 桃太郎チャレンジキャンプにおける…9 調査研究まとめ（アンケート調査結果）	
◎参加者の声・保護者の声	11
◎ボランティアスタッフから	12
◎担当者から	13
◎部会設置による質的向上	14
◎「やってみたい」が自立への第一歩	15

事業の概要

1. 事業の概要

(1) 期日

事前研修 令和元年7月13日(土)～7月14日(日) 1泊2日

本キャンプ 令和元年8月18日(日)～8月24日(土) 6泊7日

(2) 場所

国立吉備青少年自然の家

(3) 参加者

① 募集対象・人数

小学校3・4年生 24人(応募総数61人)

② 参加人数

24人(うち大阪府1人、兵庫県1人)

(4) 外部スタッフ

看護師 1人

ボランティア 11人

(5) 参加費

20,000円(食費、保険料、シーツ代、バス代等)

(6) 日程

① 事前研修

7/13 (土)		開 会 式	オリエンテーション	昼食 (レストラン)	オリエンテーション ウォークラリー 下見	振り返り	テント設営	野外調理 (焼きそば・ごはん)	振り 返 り	シャワー	就寝
7/14 (日)	起床 清掃 朝のつどい	朝食 (弁当)	ロングウォーク下見(徒歩とバスにより) 吉備津神社～吉備津彦神社～ノートルダム清心女子大学一宮校舎～吉備津神社～砂川公園～鬼の城						振 り 返 り	閉 会 式	

② 本キャンプ

8/18 (日)		受 付	開 会 式	オリエンテーション	昼食 (レストラン)	仲間作りゲーム ハイキング		野外調理 (ロコモコ丼)	振り 返 り	シャワー	就寝 (イヌ村)
8/19 (月)	起床 清掃 朝のつどい	野外 調理(ごはん・ 味噌汁・魚)		課題解決オリエンタリング	昼食(弁当)	テント張練習		野外調理 (焼きそば)	振り 返 り	シャワー	就寝 (イヌ村)
8/20 (火)	起床 清掃 朝のつどい	朝食(おにぎり・ ゼリー)	片付け バス 移動	ロングウォーク①吉備津神社～吉備津彦神社～ ノートルダム清心女子大学一宮校舎 約3km 昼食(弁当)			入浴	夕食 (牛丼・みかん)	振り 返 り	桃太郎 伝説の 話	就寝 (ノートルダム 清心女子大学 一宮校舎)
8/21 (水)	起床 清掃 準備	朝食 (パン・ スープ)	バス 移動	ロングウォーク②吉備津神社～砂川公園 約17km 昼食(弁当)			テント 設営	シャワー	野外調理 (ラーメン)	振り 返 り	就寝 (砂川公園 テント泊)
8/22 (木)	起床 清掃 朝のつどい	野外 調理(ホットドッグ みかん)		ロングウォーク③砂川公園～鬼ノ城 約6km(往復) 昼食(弁当)			バス 移動	調理 (炙り豚丼)	振り 返 り	入浴	就寝 (多目的ホール)
8/23 (金)	起床 清掃 朝のつどい	野外 調理(ごはん・ 味噌汁・ ウインナー)	片付け 清掃	桃太郎お楽しみ企画 (バウムクーヘン作り・弁当)			振り返り	夕食 (レストラン)	キャンドルの つどい	入 浴	就寝 (ロッジ)
8/24 (土)	起床 清掃 朝のつどい	朝食 (レストラン)		振り返り	閉 会 式						

2. 事業実施にあたり、これまでの反省を元に改善工夫したこと

(1) 発達段階に応じた対応

平成 29 年度ロングウォークで道に迷い、完歩できず
地図 ➡ フォトマップへと改善



(2) 参加申込

チャレンジしたいという意欲をくみとる ➡ 参加申込書に志望動機を記入

(3) 参加した子供たちの変容を把握

意識調査の導入

平成30年度 予備調査

令和元年度 変容調査

調査内容 (へこたれない力・意欲・コミュニケーション力・自己肯定感)

(4) ボランティアスタッフの組織化と資質向上

① ボランティアの組織体制を構築

職員 ➡ リーダー (1人) ➡ サポーター (2人) ➡ 班付ボラ (8人)

② リスクの洗い出しと対処方法の研修

- ・ 班内のコミュニケーション
- ・ ロングウォークの实地踏査
- ・ ボランティア間の協力体制の構築

③ 参加者理解と支援方策の研修

- ・ 法人ボランティアガイドブックを活用
(国立青少年教育振興機構 平成31年4月発行)
- ・ 経験豊富な主任企画指導専門職からの指導

事業の概要

1日目

めあて：出会い・お互いを知る



2日目

めあて：協力とは何か知るきっかけを作る



3日目

めあて：桃太郎伝説を知る ロングウォークへ向けての意識を高める



4日目

めあて：桃太郎伝説を巡る お互いに協力し、助け合う





5 日目

めあて：仲間意識をもって踏破する



事業の概要

6日目

めあて：仲間との思い出を作る



7日目

めあて：一週間のまとめ・振り返りをする





1日目



2日目



3日目



4日目



5日目



6日目



7日目

自信・成長

1 調査内容

参加者の事業参加による「へこたれない力」「意欲」「コミュニケーション力」「自己肯定感」(4つのカテゴリー)の変容を把握するため、「子供の頃の体験がはぐくむ力」とその成果に関する調査研究(国立青少年教育振興機構:平成30年3月)を参考にし、大学教員や自然体験活動指導者などの有識者で検討を行い、4つのカテゴリー及びこれを構成する項目を設定しました。事業参加者が回答しやすいように調査項目を一部独自で修正し、4つのカテゴリー各5項目、計20項目を使用して検証しました。

3 分析方法

回答データ「とてもあてはまるーまったくあてはまらない」に1-4点を与えて得点化し、平均点を算出しました。その後、4つのカテゴリーを構成する項目ごとに得点を加算し、その平均点をカテゴリー得点として算出しました。また、調査時期による各カテゴリー得点の差を明らかにするために調査時期を要因とする分散分析を行いました。

4 調査結果

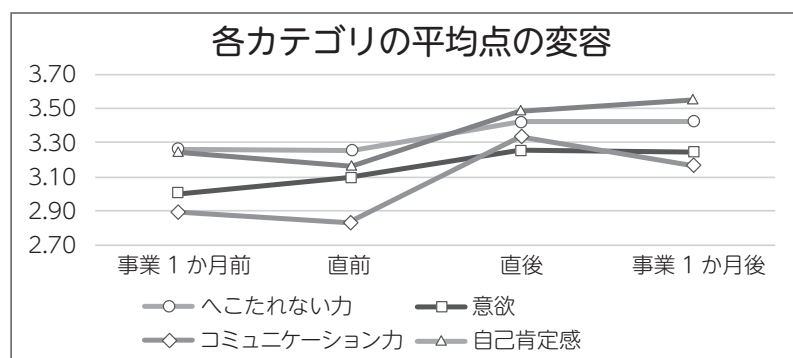
各カテゴリーについて調査時期別の平均得点、標準偏差(下段カッコ内)及び分散分析の結果は表1、図1に示す結果となりました。

【表1】

カテゴリー	N(回答数)	事業1か月前	事業直前	事業直後	事業1か月後	F 値	有意確率
へこたれない力	22	3.26(0.50)	3.25(0.55)	3.43(0.48)	3.43(0.49)	2.757	*
意欲	22	3.00(0.62)	3.10(0.56)	3.25(0.53)	3.25(0.56)	2.839	**
コミュニケーション力	21	2.89(0.59)	2.83(0.73)	3.33(0.59)	3.17(0.66)	8.799	***
自己肯定感	21	3.25(0.59)	3.16(0.73)	3.49(0.59)	3.54(0.66)	12.843	***

*: $p < .10$ ** $p < .05$ *** $p < .01$

【図1】



分散分析を行った結果、4つのカテゴリーにおいて調査時期によって平均得点に有意差が認められました。そこで、調査時期である「事業1か月前」「事業直前」「事業直後」「事業1か月後」を比較するため、検定を行ったところ、4つのカテゴリー全てで直前から直後に比べて得点が有意に向上し、1か月後の得点も直前の得点に比べて有意に向上しました。

2 調査方法

①「へこたれない力(5項目)」、②「意欲(5項目)」、③「コミュニケーション能力(5項目)」及び④「自己肯定感(5項目)」に関する各項目について「とてもあてはまるーまったくあてはまらない」を両端とした4件法で、事業1か月前(令和元年7月下旬)、事業直前(令和元年8月18日)、事業直後(令和元年8月24日)及び事業1か月後(令和元年9月下旬)にそれぞれ回答を得ました。

また、事業1か月後には参加者に「事業の感想」、参加者の保護者に「事業直後や現在の我が子の様子」について自由記述によるアンケートの回答を求めました。

5 考察

調査結果から、参加者の実際の様子を踏まえ、特に有意に変化が見られた「コミュニケーション力」と「自己肯定感」について考察します。

コミュニケーション力

「コミュニケーション力」について、「事業直前」から「事業直後」にかけて有意に向上しました。

これは、毎日の振り返りの中で班の仲間たちとその日あった出来事や感じたこと、考えたことの共有を行ったことが、変化の要因であると考えられます。初めは自己紹介すら難しい状態で、振り返りの中でも言葉を発せない様子も見られましたが、野外調理やオリエンテーリングなど、1人ではなく、班の仲間と共に活動したことにより、お互いに話ができる仲に深まっていき、自己主張や、相手の話を聞く姿勢を高めることができたと考えられます。

ある班では、班員で円になって座ることすら難しい状況がありました。班付のボランティアが中心となり、まずは話を聞く体制を作ることから始まり、誰かが話しているときにはしっかりと耳を傾けることが大切であると指導を行い続けました。その結果、だんだんとお互いの話や意見を聞き入れる体制ができ、「みんな聞いて。」「みんなが納得しなきゃいけないから。」といった発言が子供たちから出てきました。

班で協力する活動と共に、ボランティアの粘り強い指導も、有意に向上した一つの要因であると考えられます。

自己肯定感

「自己肯定感」について、「事業直前」から「事業直後」、さらに「事業直後」から「事業1か月後」にかけても有意に向上しました。これは桃太郎伝説を巡るロングウォークのような、体力的にも負荷の高いプログラムを設定したことが、課題を解決して達成感を味わうという点で効果があったと考えられます。

本キャンプの参加対象となっている小学校3・4年生の発達段階の子供にとって1週間と比較的長期のプログラムや体力的に負荷の大きいプログラムの設定は歩き切ったときに達成感が芽生え、参加者の「自己肯定感」に影響を与えることが示唆されました。

また、ロングウォークのゴール地点で、「次の班がゴールする」という知らせが入ったときには、作業の手を止めて迎えに行こうと走り出し、一緒に喜んでいました。互いの成功を称え合う姿から、仲間との達成感を味わうことも「自己肯定感」が有意に向上した要因と考えられます。

参加者の声・保護者の声

参加者

色々なことにチャレンジができた、ともだちがたくさんできたり、本当に楽しかったです。リーダーさんや、みんなが楽しいことをいっぱい教えてくれたので、家に帰りたくありませんでした。最後みんなと別れるのが悲しくて泣いてしまいました。でも、スタッフみんなが「またね!」と言ってくれたので嬉しかったです。これからもいろいろなことを最後まで頑張りたいです。ありがとうございました。また会いたいです。

最初は不安な気持ちでしたが、いろいろな活動をしていくうちにみんなと仲良くなれました。ぼくの中で一番の思い出はロングウォークです。最初は絶対無理だと思いましたが、つらかった時に歌を歌ったり、励まし合ったりして無事ゴールができました。

日常生活では体験できないことがたくさんあり、一回り成長できました。

最初はみんなとうまくやれるか不安だったけど、だんだん仲良くなって、最後はちょっと寂しかったです。ロングウォークは汗をびしょりかきながら楽しく歩いていきました。鬼の城で食べたお弁当がおいしかったです。このキャンプに参加したことで、友達ができ、みんなでわいわい食事ができ、家族がいないところでも大丈夫だと思えるようになりました。

保護者

キャンプから帰ってきて数日過ぎたある日、晩御飯を食べ終えたとき「お母さん、ご飯作ってくれてありがとう。」とさざっと言ってくれました。今まで一度も言ってくれたことが無かったので正直驚きました。自炊をしてみて、食事を作ることの大変さを実感しての言葉だったのだと思います。我が子の成長を感じた瞬間でした。

班のお友達との意思疎通が上手くできず、精神的に疲れたようで、口内炎をいくつか作って帰ってきました。考えの違うお友達に伝える難しさ、お互いに歩み寄るための言い方など子供なりに精一杯頑張った。しかし、できなかった結果だと思います。『もめ事は肥し』として、いい経験になりました。



ボランティアスタッフから（感想より一部抜粋）

班付ボラ※

※班付ボラ：班員のサポート
班員の細かな様子を観察

班付ボラである私たちが、「みんなで考えよう。」や「みんなでその考え共有しよう。」という声掛けをしきりにしていたら、振り返りの際に、子どもたちの方から「みんな聞いて。」や「みんなが納得しなきゃいけないから。」といった発言があり、びっくりしました。初日、円になって座ることすら難しかったグループでしたので、本当に成長したなと感動しました。人の話をすごくよく聞いてくれるようになったし、人のことをよく見て、考えてくれるようになったと思います。お互いが持ち合わせたこだわりに対して、否定するのではなく、待ったり、折衷案を考えたり、そういった柔軟性がみられました。

今回の桃チャレで学んだことの1つは、子どもの気持ちに寄り添うことの難しさです。7日間、嬉しいことや楽しいことだけでなく、しんどい、さみしい、もう歩きたくない、手をつないでほしいなど子どもの様々な感情に触れることができました。そのとき「頑張れ！」という一方向の応援だけでなく、「足痛いよね。よく頑張ってるね。」と共感し、「一緒に頑張ろう。」と双方向的な声かけをすることは大切だと感じました。また、すべき行動を指示するとき（朝の準備など）には、子どもの思いを受け止めるだけでなく、「だけど今はこれをしてほしい。」と私の気持ちも伝えることが大切だと感じました。大人の事情と子供の事情のどちらも大切にしてお話することはこれからの課題です。

サポーターボラ※

※サポーターボラ：全体把握
班員ボラのサポート

ロングウォークの道中見かける子どもの姿は、「心配ご無用！」と言わんばかりでした。前日まで自分勝手だった子が「友達と一緒に頑張っている。」と教えてくれ、真っ先に自分の話ではなく友達や班付ボランティアの話を教えてくれる姿を見て、すごく成長を感じました。自分より先に誰かを思って行動をとるということは、なかなかできることではないと思います。このことが自然とでき始めている姿をみて、改めて桃太郎チャレンジキャンプを通して子ども達が成長したなと思いました。

1週間をかけて子供たちの様々な成長を見るだけでなく、自分自身の成長も大きく感じられました。子供たちとは少し離れたところから接することで、近くにいると見えないことも見えた気がします。子供の性格だったり、自分でできることを甘えているな？と感じたり、最初は喧嘩ばかりだったのに仲良く協力していたりと、様々な場面を客観的に見ることができました。



桃太郎チャレンジキャンプ担当者から

担当者より

「桃太郎チャレンジキャンプ」は6泊7日の実施で、3年目を迎えました。事業の運営にあたり、いくつかの視点に分けて詳細を報告します。

めあてについて

キャンプでは、6泊7日を通して、子供たちの自立を目指す視点から、①「自分のことは自分でする」②「何事にもチャレンジする」③「みんなのことを考えて行動する」ことを目標として掲げました。この3本柱を軸に、各班で班旗としてビーイングを作成し、それを用いながら振り返りを行いました。

ボランティアスタッフとも毎日振り返りを実施し、子供の状況や関わりに対する共通理解を図るように努めました。その日の子供たちの状況を事細かに報告し、どのような対応がその子にとって一番効果のある方法であるのかをスタッフみんなで考えていきました。

岡山らしさをもとめて



桃太郎チャレンジキャンプのコンセプトの1つに、「岡山らしさ」という視点がありました。そのことから、「桃太郎の伝説を巡るロングウォーク」を実施しました。

昔話に出てくる桃太郎は鬼退治に出かけますが、岡山の桃太郎伝説は少し違った話です。伝説に出てくる桃太郎や鬼は、岡山の土地や神社にまつわるお話です。その話の中に出てくる神社やゆかりの土地を丸二日間かけて歩きます。総距離20kmほどですが、小学校3・4年生の子供たちが炎天下の中で歩き通すことはとても辛そうでした。友達から仲間になって、その仲間からの励ましを受けながら、完歩した時の笑顔はとてもまぶしいものでした。

食事について

「自分のことは自分でする」という観点から、キャンプ中のほとんどの食事を自炊にしました。ただし、子供たちが3・4年生であることや、帰ってから家庭でのお手伝いができるように、包丁を使わずに簡単に調理できる方法で実施しました。また、お米は何度か炊くようにし、だんだんと上手に炊けるようになっていく様子が見られました。



企画指導専門職付 貞方 貴衣

部会設置による質的向上

目 的

国立吉備青少年自然の家の設置目的である青少年教育の振興と青少年の健全育成に向けて、地域に根ざした効果的・効率的な教育施設の管理運営を図るため、施設業務運営委員会に部会を設置しました。

設置部会

桃太郎チャレンジキャンプ〔2019年度～〕

部会運営

(1) 委員

委員長 光畑 俊行、副委員長 小谷 篤義

	所 属	役 職 等	委員氏名
1	岡山県PTA連合会	事務局長	市 圭子
2	岡山大学	大学院教育学研究科教授	熊谷 愼之輔
3	岡山県教育庁	生涯学習課社会教育班社会教育主事(主任)	小谷 篤義
4	岡山県キャンプ協会	会長	大天 嘉行
5	岡山県生涯学習センター	振興課社会教育主事(主幹)	瀧田 正宏
6	公益社団法人岡山青年会議所	まちづくり室 エキサイトおかやま委員会理事委員長	中村 彰宏
7	岡山県小学校長会	玉野市立大崎小学校長	西川 竜馬
8	日本ボーイスカウト岡山連盟	理事・行事委員長	光畑 俊行
9	山陽新聞社	読者局NIE推進部長	山本 直樹

部会は委員9人で構成、委員の任期は1年としました。

(2) 役割

①企画への参画

- ア) 企画の検討
- イ) 事業の質的向上への提案

②事業実施での協働

- ア) 桃太郎チャレンジキャンプの運営
- イ) 協働の推進(参加者募集、後援、講師や会場提供等)

(3) 日程(予定)

4月23日	第1回部会 企画検討会
7月 8日	第2回部会 事前打合せ
8月18日～24日	桃太郎チャレンジキャンプ
12月 9日	第3回部会 振り返りと次年度に向けて

「やってみたい」が 自立への第一歩

ギャングエイジと呼ばれる9歳～10歳、ちょうど小学校3・4年生の学年になります。

当所の看板事業である「桃太郎チャレンジキャンプ」では、この小学校3・4年生を対象として全国に募集します。今年は、岡山県を中心に3府県から61人の応募がありました。

2年目となる平成30年度事業から参加申込書に「志望動機」を書いてもらうように変更しました。「歩くのが苦手だから克服したい」や「みんなの前でも大きな声で話せるようになりたい」などの力強いメッセージが届きました。

初日に緊張していた参加者も、閉会時には仲間との別れを惜しむ姿が印象的でした。キャンプでの7日間、苦勞をしながら挑戦して培った仲間の大切さを再確認できました。

事業1か月前～事業直前～事業直後～事業1か月後の変容調査で、P9の調査結果にあるように「自己肯定感」が直後の上昇に加えて、1か月後も更に上昇しています。

<3つのやくそく>

- ①「自分のことは自分でする」
- ②「何事にもチャレンジする」
- ③「みんなのことを考えて行動する」

この「3つのやくそく」を目指して活動することで、中学年から高学年への階段を1段1段登ることができたのだと思います。

「やってみたい」からキャンプに挑戦したことで、自信をつけて自立への大きな一歩を踏み出せたことと思います。

本事業も長期キャンプに移行して3年目を迎えました。この報告書を通して成果を発信して普及を図り、全国各地で子供たちがチャレンジできる機会が拡充されていくことを期待します。

また、日本遺産に登録された『桃太郎伝説』が生まれたまち おかやまである当所の立地を活かして、本事業の更なる充実を図っていきたいと思います。



所長 高藤 佳明

平成 29 年度の様子



平成 30 年度の様子



レッツ
チャレンジ！



【お問い合わせ先】

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立吉備青少年自然の家

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 4393-82

電話 (0866) 56-7232 ファックス (0866) 56-7235

Eメール: kibi-senmon@niye.go.jp

吉備青少年 検索

